

集中的支援実践の支援手順

- ▶ 三重県自閉症・発達障害支援センターれんげ
 - ▶ 広域的支援人材
 - ▶ 北 哲史

集中的支援実践の支援手順 (令和6年10月～令和7年4月)

①情報収集

②直接観察

③冰山モデルで考える

④ストラテジーシートで考える

⑤手順書の作成

⑥支援開始

⑦振り返り

①情報収集（10月～11月）

- ・ 生育歴
- ・ 診断名、障害支援区分、知的の程度
- ・ これまでの生活状況
- ・ 今の生活状況
- ・ 課題と感じている行動について
- ・ 行動の始まり
- ・ どのようなときによく起こるか
- ・ 今まで行った対応について
- ・ 職員さんへのアンケート

②直接観察（11月～12月）

- ・ターゲット行動の確認
- ・ A B C 記録及びスキッタープロットによる現状の評価
(ベースラインの確認)

ABC記録

A（事前）

行動が起こるきっかけ

食後、生活棟に
歩いて戻る際、
職員による等

B（行動）

課題となっている行動

口内の残食を吐
く

C（事後）

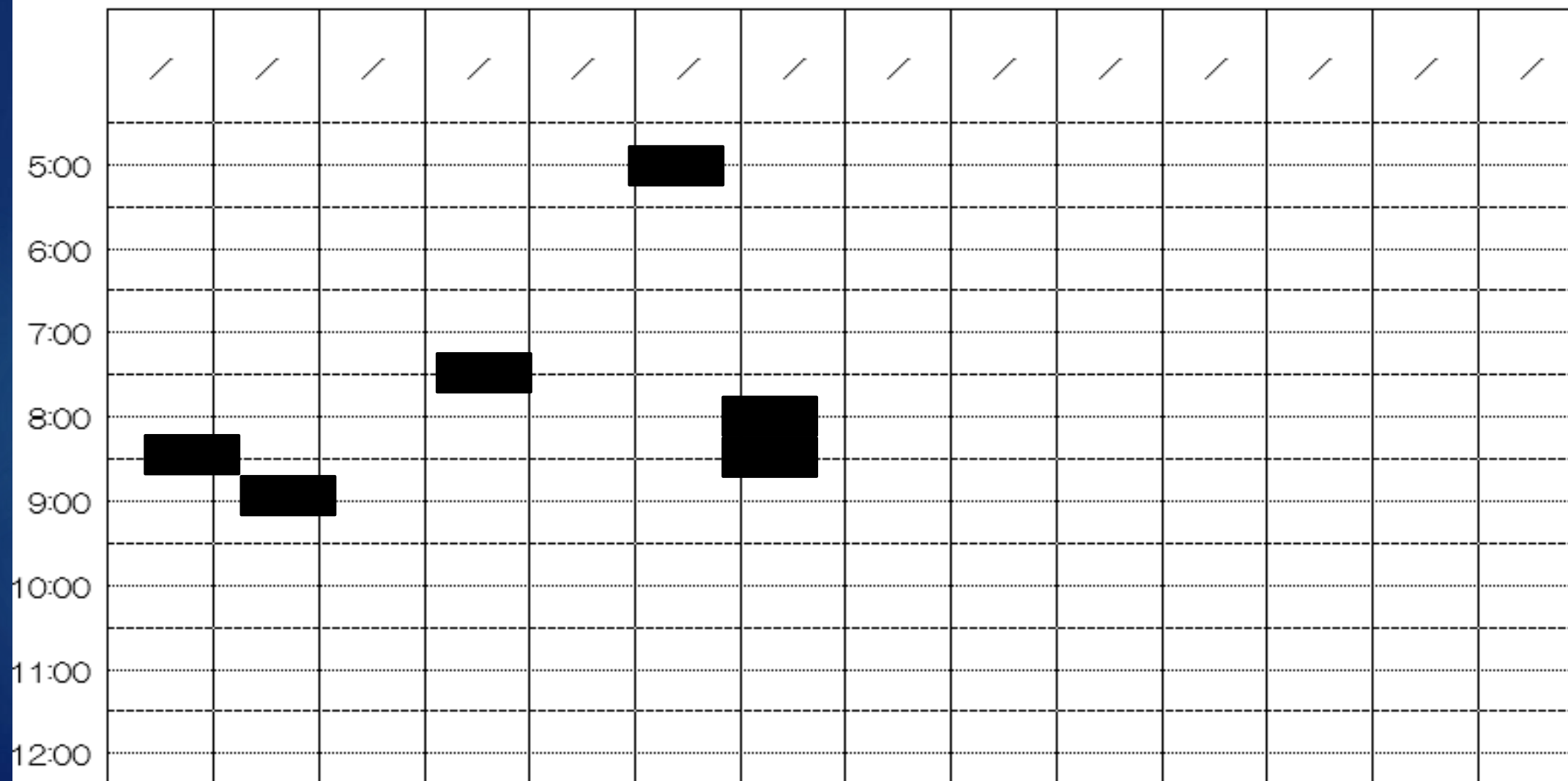
結果として得たこと
逃れたこと

職員が片付け
る

スキャッタープロットとは

観察する行動： □

□



③氷山モデルで考える（12月）

- ・ターゲット行動の氷山モデル作成

（食後、残食を口から吐く行為、ソファを動かす行為、他人の部屋から物を持ってくる行為）

⇒現場職員への氷山モデル

④ストラテジーシートで考える

- ・ターゲット行動のストラテジーシート作成（（食後、残食を口から吐く行為、ソファを動かす行為、他人の部屋から物を持ってくる行為）

ストラテジーシート【記入日 年 月 日】 【氏名 】

```

graph TD
    A[A: 事前] --> B[B: 行動]
    B --> C[C: 事後]
    
    D[事前の対応の工夫] --> A
    E[望ましい行動] --> B
    F[ほめ方・楽しみな活動] --> C
    
    D --> E
    D --> G(事前・事後の環境の工夫を行ってもものごましくない行動が起きたとき！)
    G --> F
  
```

⑤手順書の作成

- ・手順書の共有

⑥支援開始

- ・ 支援の経過の共有
- ・ 支援経過の評価